

「トピックス」 令和7（2025）年度

第3回 「人権としての『性』」

安芸太田町は、すべての人がお互いの人権を尊重し、多様性を認め合いながら一人の人間として、その個性と能力を十分に発揮できる社会の形成を目指しています。その取組の一環として、この4月に「安芸太田町パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。この制度は一方または双方が性的マイノリティであるお二人が、互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合うことを約束した関係（パートナーシップ）である旨の宣誓書を提出し、町が受領証および受領カードを交付するものです。そこで、今回は身近な事象を取り上げて、「人権としての『性』」について皆さんといっしょに考えたいと思います。

おとなの皆さんは、子どものころ先生や友だちから何と呼ばれていましたか。学校に今通っている皆さんはどうですか。ニックネームや敬称を付けない場合（いわゆる呼び捨て）を除くと、基本的には「～さん」「～くん」「～ちゃん」のうちのいずれかで呼ばれていたのではないのでしょうか。一般的に「～さん」は性別を問わず使われるのに対し、「～くん」は主に男の子に対して用いられます。一方、「～ちゃん」は幼い子どもに対して用いられる愛称であり、男女ともに使うことができるものの、親しみを込めたやや砕けた印象を受ける表現です。このような区分は、従来のジェンダーに基づく慣習を反映していますが、ジェンダー平等の観点から、男女を区別せず「～さん」付けとする動きが、今は多くみられるようになっていきます。

「NHK ことばのハンドブック（第2版）」には、敬称としては「～さん」または「～氏」を原則とし、複数の場合は「～の各氏」と表現するよう規定されています。また、学生や未成年者に対しては、状況に応じ「～くん」を用いることが認められており、就学前の幼児には「～ちゃん」を付けるのが一般的とされています。さらに、事件事故など痛ましい事態に巻き込まれた場合や、愛らしさの強調を意図する場合には、小学生に限って「～ちゃん」を使用してよいといった

具体例が示されています。

一方、新聞社や通信社、民放などでは、小学生の男の子に対する敬称として、従来「～くん」を原則とするところが多い中、近年ではジェンダー平等の観点から、男女を区別せず「さん」付けとする動きが出ています。毎日新聞は、就学前は男女ともに「～ちゃん」、就学後は一律「～さん」を使用することとしているそうです。

NHKが2023年2月に行った「男の子の敬称に関する調査」では、全年齢区分において「～くん」の支持が最も高くなっています。具体的には、就学前では約半数、小学校においては6割以上が「～くん」を妥当と考えていることが分かりました。一方、「～ちゃん」は就学前の支持が高いものの、学年が上がるに従って支持率が低下し、逆に「～さん」は小学校高学年において支持が増加する傾向が出ています。

私は、2つの小学校で計7年間勤務しました。そこで感じたのは、児童を呼ぶ時は、性別に関わらず「～さん」という敬称を用いるのが当たり前になっているということです。それは、先生が児童を呼ぶ場合に限らず、児童と児童が呼び合う場合も同じでした。更に、中学校の教室でも生徒と生徒が呼び合う場合は「～さん」が定着していました。このことについて小学校の先生に尋ねたことがあります。その答えは、「ジェンダー平等」と「こどもの人権尊重」の観点から校内で意思統一をして取り組んでいるという明確なものでした。以来私は、小学校でも中学校でも、そして職員間でも、年齢や性別に関わらず、人を呼ぶ場合は「～さん」を用いるようにしています。

皆さんは、どう考えられますか。マスコミでも揺れているように、すぐには答えが出ないのかもしれませんが。

「こどもの意見表明と尊重、施策への反映」の観点からも、「教育長と話す会」などで、児童・生徒の皆さんと意見交換をしていければと考えています。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人